

会議要旨	
会議名	令和6年度第1回大津町中小企業・小規模企業活性化会議
開催日時	令和6年7月11日（木）14時00分～16時00分
場所	大津町役場 町民協働ルーム
出席委員	足立裕介会長・松永幸久副会長・松島嘉浩委員・山下和貴委員・川添英男委員・高木信委員・清原さおり委員・狭間直美委員・永田和彦委員・永友義孝委員・藤本聖二委員・白石浩範委員
欠席委員	本郷誠委員
出席者	【 町 】 工藤副町長、西光都市計画課長、山田企業振興課長 【事務局】 坂本課長・村山係長心得・井上主事（記）
議題	1 開会 2 委嘱状交付 3 会長挨拶 4 副町長挨拶 5 委員紹介 6 議題 (1) 本町の経済発展に向けた今後の取組、中小企業振興施策等について (2) 本町の工事・役務・物件契約における町内事業者の受注状況等について (3) その他 7 閉会

■議題

(1) 本町の経済発展に向けた今後の取組、中小企業振興施策等について
事務局より説明【資料①～⑧】

(議長)

ただいま説明がありました今後の取組、中小企業振興施策等について、ご質問などありましたらお願いします。

(委員)

資料④の前年度の課題について、今年度の取組を見ても、当たり前のことばかりで解決策と感じられない。

地場企業育成のため、地元企業を優先した事業者活用は当たり前である。

しかし、例えば町外と比較して2割3割も高いと話が違う。

きちんとした積算根拠と町に寄与する根拠がないならば、あまりにも現状価格と乖離し

たものをわざわざ高く買う必要ない。

健全財政のための経費削減は必ずいるが、地元で納税されて雇用を確保されていることは認めるべきであり、きちんとした根拠を行政としては持つべき。

また、急激な変化に伴い一番求められるのは、インフラ整備であるが、道路の新設や拡幅は簡単にできない。

子どもの安全確保の指摘があったが、子どもの通学路・生活道路を拡幅して綺麗にしたならば安全になるのか。

確率は高まるが、道を歩くときに車の接近に気づくことが出来る自己防衛が大切である。インフラ整備は、進めていくべきだが、いつも子供たちのためにと子供たちを過保護にするのではなく、義務教育の中で子どもたちが車の接近に気づき、自己防衛の感覚を鍛えてもらうことが、本当の安全確保に繋がる。

現状と課題について、把握されているが、それが本年度の取り組みに反映されていない。町の行政は予算主義のため、行政としての戦略を持ち、将来投資を考えなければならない。

今後10年、20年を想像し、行政が的確な行政投資をしなければならない。企業定着による人口増加、それに伴う各種税収が増え、発展路線に行くために、基金を取り崩してもやるべきことを選択する必要がある。この投資に町長の判断が非常に重要であり、大津町が他の自治体に遅れないために、先駆けて行政投資をするべきだと思う。

周りの自治体の戦略の把握はもちろん、こちらの戦略も把握するべき。

そのために、予算の投資的経費への組み上げ方が重要であり、金融機関等に相談しながら長期的な感覚で投資を行うことが重要である。

現状の1年先2年先の計画も立てられないようでは、周りに後れをとることになる。

大津町は、TSMCの影響のほぼ中心であり、チャンスも大きい。今後の投資的な計画、行政投資を加味しないと、平凡な単年度主義の予算主義になってしまう。

この部分にこそ、グランドデザインを求められている。

(事務局)

現状の取組が薄いという指摘について予算の範囲内でやっていきたいです。費用を掛ける事業ばかりではなく、担当としては知恵を出して進めていきます。

学校と子供たちに関することについては、担当部署に相談します。

また、全体的な投資の面については、ご意見を賜りたいです。

(委員)

台湾をはじめとするインバウンドがV字回復している状況が県下全域で見られ、また、TSMCの進出により県北地域は特に盛り上がっている中、大津町の取組みとしては台湾のセミナー等をされている。

今回は、中小企業・小規模企業の活性化を議論する場であり、会議資料には今後の活性化への取組みについて記載があるが、実際には記載以外の取組みも別にあるのかお尋ねしたい。

また、昨年実施してなくなった事業もあるため、役目を終えたという認識なのか。次に展開していこうという取組みはあるのか、大津町として、TSMC の進出による効果をどう取り込もうとしているか、基本的な考え方について伺いたい。

(事務局)

TSMC が進出したメリットとして、台湾の方の定住も進む中での事業について、予算化した事業は記載されているものが全てであり、予算化されたものは、連携しながら進めていきたいと考えています。

記載はないが、今後相談していく中で、金融の方々と集まって情報交換等をしたいと考えています。

昨年度で終了している事業については、模索しながら進めていきたいと思います。

今年度、新しく台湾関係のセミナーを開催します。また、商工会と一緒に商業機会や現地の事業者の関心事を学ぶための台湾研修事業を行う予定です。

その他に、大きな目玉があるわけではないが地道に取り組みながら委員の意見・指導を受け進めていきたいと考えています。

(委員)

昨年度から実施しているデジタル化の DX 展示会について、106 人の参加実績があるが、今年度の取組みでは、なくなっている。

県と国が DX を推進しているが、大津町では終わりと考えているか。

(事務局)

終わりと考えてはいませんが、本年度は、実施メニューを定めてはいない状況です。

DX 人材の不足ということもあり、効率化を意識して取り組んでいく必要があると思います。

また、DX の導入は、必要不可欠であり、県でも DX を進めておられるので、事業者にご相談してもらい、支援等を活用してもらいながら、推進してもらいたいと考えています。

(町)

大津町の TSMC の進出に伴う取組みについて説明します。

資料⑥の 4 ページで、現在町で検討を進めている将来の展望について詰め込んでいる状態です。TSMC が来ることについて単純に台湾の方の対応ということではありません。

台湾企業も 10 社近く進出しているが、日本の企業も 30 社以上、特に半導体企業・物流企業の進出が加速しています。

ここ 2 年半で進出した企業の従業員、新たな雇用者の数だけ見ても 1,000 人を超えてい

ます。

今後これらの企業が立地をして、雇用者の方々が来られること。また、企業の受け入れや、住居の確保を詰めていく必要があると思っています。

そして何よりも大津町に住みたい、立地したいと思えるような魅力的なまちづくりが一番大事と思っています。

そこを踏まえて、展開しているのが、肥後大津駅の周辺賑わい創出エリアに記載している、肥後大津駅の周辺の機能を強化し、魅力的なまちづくりを行うこと及び10年後に来る空港アクセスの鉄道ルートになります。

沿線上に中間駅を置くことを検討し、そこに新たな商業施設や、住居地の確保を検討しています。

また、台湾の方の人口が増加している中での受け入れ態勢として台湾の方々に対応した店舗の創出を商工会と連携しながら行っていきます。

今後、ホテル等の建設が進むため、大津町を魅力的な町にしていく検討を引き続き進めていきます。

(委員)

資料④のその他(2)項目であるとおおり、中小企業にとってTSMC進出の件が、一番重要である。

しかし、全体像が定まらないと事業の拡大も難しい。グランドデザインについて考えることが必要。

グランドデザインを描いていく中で、近隣市町村が大津町をどう見ているのかについて、菊池に住んでいる事業者の視点として共有したいと思う。

菊池市は、交通や観光業の対象先として福岡県。特に福岡空港・博多駅からの人の流れを重視している。

福岡の人々が何に関心を持ち、行動するのかを注視し、今後の商業のやり方や、まちづくりの進め方を決めていくのが最善と考えている。

町の変化が進む中で、住宅と産業を考えたとき交通インフラが一番重要。

菊池と大津の間は、車での移動はできるが、バスは充実していない。菊池市に指摘したところ、今後検討していくとの回答であり、やっと大津町を見ている状態である。

大津町でも一番大事なグランドデザインが交通のインフラである。副町長からも話があったように、空港や南阿蘇鉄道、豊肥本線である。そして高速道路関係も関わってくる。

そこを大津町が単独でやるのではなく、近隣市町村を見定めた上で連携のできることをしていくことが、グランドデザインとして大事である。

そこについて伺いたいですが、現状そのあたりの話がでていない。

(議長)

グランドデザインの問題は昨年度から続いている。

(委員)

グランドデザインについて、前回の会議でも大津町はグランドデザインがないため、どうしたいのか申し上げた。グランドデザインは、大津町で考えていく必要がある。

資料⑥の4ページを見ると、町が変わらなくても企業が町に来て立地されているが、本来は大津町を選択してもらうために、大津町自身がきちんと企業誘致と農業の集積の棲み分けをしなくてはならない。

農業の人たちは土地がなく畜産や農家ができないというジレンマが出てくる。

乗り遅れないようスピード感を持ってやらないと、今の流れについていけない。

商工会では、会員には総会が終わりすぐ、各委員会と部会で会議し、何が必要で何をすべきか、7月中に会議を終えて、取り上げていこうとしている。現在、アンケートをとっているが、求めているものは多い。

外国の人たちが大津町を訪れるケースについて、きちんと商工会としても対応できるようにしていく必要がある。

例えば飲食業のメニュー一つにしても、日本語表記だけでなく複数の外国語表記を取り入れたメニュー表の作成にも取り組まなければならない。今年度、大津町でもその対応に取り組むことになるので、商工会としてもありがたい。

商工会として、途絶えることなく、一歩前進で行政支援をしたいと考えており、会議の中で取り組みについて検討していきたい。

(委員)

町にはグランドデザインの検討を当店も含めてしていただきたい。

しかし、駅の南側の一帯開発には、土地の購入やアクセス鉄道と課題が多い。

私は今の立地で、駅の周辺の賑わい創出に繋がるような構想をしていきたい。

質問になるが、資料⑥の14ページで県外に高卒の方が流出している。

この原因について、雇用先の企業の不足、賃金・給与の問題または他の原因があるのか知りたい。

今後、相当数の労働者がこのエリアで不足するのは明らかであり、現在工場着工している地方でも来年8月から地元で100人の採用を行い、増設したら更に250人を地元で採用したいという話が、東京で本社の担当と話があり、他の企業にも該当する。

そうなった際に、いかに地元の高卒大卒の人材を県内に留めるかが、熊本県大津町周辺自治体の課題と考える。大津町だけでなく他の自治体とも連携しながら、他のエリアの高卒を大津町で受け入れる等の連携をしていかなければ、人材不足は解消できないのではないかと。

それを補うならAI化やDX等または、外国人労働者を増やしていくような施策になる。

この辺りは相当深刻な問題であり、資金不足による倒産ではなく、人材不足で倒産という企業が相当数増えてくることを私ども金融機関も危惧している。

このことは、具体的な策を進めながら、中長期で考えなければならない課題である。

(議長)

それに関して、すぐの回答は難しいが、地元企業に就職してもらうための取組の事例として、例えば東大阪で実施した際には就職に結びついていると報告があった。

大津町での実績成果を教えてください。

(町)

翔陽高校の生徒さんの就職の状況について説明します。

約 120 名の生徒が毎年就職を希望しており、全校生徒は 250 人程なので約半数の生徒が就職を希望していると聞いています。

この 120 名のうち 88%ぐらいがここ数年、県内に就職をしており、さらにそのうち 3 割近くが大津町内の企業に就職をしています。

平均をすると、毎年 120 人のうち 30 人ぐらいが町内の企業に就職をしている。町内には大津高校もあるので、その辺りも含め、県内あるいは県外に就職している生徒も大津町内の企業に就職をしてもらうため、企業ガイダンスや工場見学会等を実施しています。

工場見学会の後に生徒にアンケートを実施しています。企業ガイダンスだと、企業の仕事の紹介になるが、実際に工場の現場を見てもらうと、アンケート結果で将来の自分がそこで働いているイメージを持つことができた。といった積極的な意見、肯定的な意見がありましたので、引き続き企業連絡協議会、あけぼの会と商工会を含めて、連携しながら高校や大学、県立技術短期大学を含めたところで、町内への就職支援を進めていきたいと考えています。

(町)

大津町の企業連絡協議会と連携した取り組みは県内でも珍しい取り組みです。地元企業も多く参加しており、学生が町内の企業に興味を持ってもらう。また、先生と企業の懇談会も町単位での実施は少ないため、今後も企業連絡協議会と連携して取り組んでいきたいと考えています。

また委員の提案について、資料⑥の 4 ページで肥後大津駅の基本構想の説明について、今年度は、基本構想をより具体化して肥後大津駅周辺の政策を検討しています。

店舗とも協力して、肥後大津駅を海外の方も国内の方も迎える玄関口にして魅力的な場になるよう検討を進めていきたい。今後のまちづくりのビジョンについて、先ほども触れましたが、今年度と来年度で都市計画マスタープランの見直しを十数年ぐらい早めて実施をする予定です。

その中で商業の施設や工業系の施設の場所について、今の状況も踏まえて検討し、また

農協の方とも農家の今の状況についてアンケートをとりながら、商工業をどう計画をしていくのかも含めて、しっかりとアドバイスをしていきたいと考えています。

また、委員から各他の市町村との連携という意見について、例えばインバウンドによる台湾の方や国外の方も多く来られ、日本の県外の方も訪れている中で、大津町単独ですべてに対応することは出来ません。

例えば菊池の豊かな観光資源に対し、大津町は、交通の結節点であり、空港からも近い。JRもあると交通の利便性が非常に高いという利点を持っています。

そこで、大津・菊池・阿蘇と県内全域で連携をしながら、観光の政策等について進めていければと考えています。

今年度も県北の広域本部と連携して観光の政策について検討を行うために、新たに予算化等を行っているので、観光も含め、他の市町村と連携しながらそれぞれの役割を磨き上げて、適切な構想を進めていきたいと考えています。

(委員)

今年度、観光の誘客の取組みについて、2市2町からも負担してもらい、連携して取り組むことを検討している。

県では、TSMCのお膝元である菊池地域を発展させ、TSMC 効果を県内全体に波及させようと、各セクションで取組みを進めている。

そのためにもグランドデザインが大変重要である。

今後のイメージとして都市マスタープランにも触れられたが、今やるべきこととして、短期的に中小企業や小規模企業の体力をしっかりと維持させ、力をつけさせることも重要である。

この計画は、すぐには難しいが、足腰の強い中小企業を作っていくためにも、このような施策は必要なため、大津町でもしっかり検討してほしい。

また、人材マッチングのための企業ガイダンスは今年度もされるか。

(委員)

今年度はすでに実施している。今年で6～7年くらいになる。

(委員)

県北広域本部でも、県北地域のマッチングを荒尾、玉名、鹿本、菊池、阿蘇の高校や特別支援学校、企業に声かけをして、1月下旬から2月上旬にかけて実施しており、今年も計画中であるので、協力をお願いしたい。

(委員)

グランドデザインの実現は、一番大事なことであるが、町だけで考えてできることではない。住民・企業・金融などの関係者の方々と一緒に実現に向け進めなければならない。

また、空港周辺をどうしていくのか県と一緒に考える必要がある。そのためにも菊池地

域の中で大津町の立ち位置を見定めることが必要と思う。

意見交換の中で、進むべき方向が見えるものだと思う。数年掛かると思われるが、何をやるかを考えていく必要がある。

そのためにも皆様と協力して進めていきたいと思い、令和4年3月に大津町中小企業・小規模企業振興基本条例を制定して、中小企業と小規模企業の活性化のための会議を開き、町も出来ることを考えながらやっている。

また、継続的に中小企業の基盤を強くする企業支援や創業支援の取組を今後も周知していきたい。

(委員)

中小企業の足腰を強くすることは重要だが、足腰を強くすると考えた時に、その事業の目的が変わってくることもある。

この地域の時代の変化で、何をするかを考えたとき、業種そのものを変える必要性も検討する。それをどう受け止めながら事業対応成長させていくかが大きな課題である。

先ほど、商店街を大きくする方法について話があったが、今は先ほどDXも含めて、方向は違うと思う。

私が携わっている宿泊業関係でも、今後大津町に多くの事業者が参入してくるという話が出ている。

これは、菊池地域が全国的に着目されており、ここに進出しないと企業は乗り遅れると感じているからと思われる。

現在、需要と供給のバランス以上に強く動いており、その変化に地元の中小企業が、大きなダメージを受ける可能性がある。

大津町の地元企業は、現在大きな変化を迎えている。その時に重要なことが変化に対応しながら他と連携し、検討していくことと考える。

(委員)

町長と意見を交わした際に常にバランスと回答された。

事業者は、常にスピードが求められる。乗り遅れて、熱が冷めてしまうとなにもならない。

だからこそスピードが重要であり、町の発展の改革について問いたが、町民の約半数が今のままの大津町で構わないとのことだった。

中小企業が多い我々企業連は、自動車関連の企業もあり、近年の国の基準等の変化に伴い仕事が思うようにできず足枷となっている。

また新型コロナウイルスの後に商業の方々が店のためにお金を借りても、以前の活気が戻るか心配との声もある。

このことについて、商工会等で店をプロデュースする必要がある。企業が大津町で食事

をしても、2次会は熊本市内に行こうとする現状に問題がある。

そこを改革できないと行政が予算を投じてでも解決は難しい。

現在、日本中で海外の企業が参入し、今までの日本のルールが通用しなくなっている部分もある。

特に海外とは、価値観の違いが大きい。企業の買収でも日本の企業は、目的のものを低価格で購入しようと努力するが、台湾等の企業は、目的のためなら定価以上の金額を支払ってでもすぐに購入しようとする。

海外資本が介入する今後は、共存ではなく、弱肉強食の世界になる可能性がある。

宿泊施設でも、台湾の企業は、高級施設でも気にせず宿泊する。そういう人たちが熊本空港でも毎日300人以上来ているという話だった。

大津町内にとどまらせるためには、目玉が必要であり、委員と話しているが、金融機関の方にも改めて相談したい。

大津町に一大拠点を設け、九州内や外国から人を呼びこみ宿泊してもらう計画がある。

しかし、実現に向けて調べると、絶対人口が足りていない。公約にもあるため町長にも相談した。町長も関係機関に相談したが、人口不足を理由に却下されたとのこと。

町長と自分のコンセプトを具体的に検討して進めていけたら、商工も町もホテルも潤う面白い大津町になっていくと考える。

中小企業関連が多い、企業連絡協議会の中でも定着率に違いがある。定着率の高く、利益を出せている企業は、リーダーシップがあり、熱を持っている人が多い。

目標を持ち、ブランド意識を盛り込んだ上で最終的に利益に結びつく運営をしており、町内の企業やコンサルタント変化を続けている。

大津町が発展するために必要なプランを進める際には、変化を求める人だけでなく、町民の半数が現状維持を望んでいることを考慮する必要がある。また、農業と産業の舵取りについて、町の特産品の「からいも」を守りつつ発展する方法を考えなければならない。そのために町長がグランドデザインとリーダーシップをとりながら進めなければ、委員の方が集まったこの時間帯は進捗のない絵に描いた餅として終わってしまう。

(議長)

先ほどに関連して町の賑わいや目玉をつくる必要があると思う。

大津町への個人的な感想として、集客候補の中には例えば観光スポットがある。最近だと、山鹿市は山や栗を推進して、週末に県外から人が集まるような古民家カフェを運営している。

町が魅力的なものを作っていく、やがて環境が変わったときに備えていることが必要。

また、取り組みの中で単発のイベントへの支援が多いと感じる。もっと継続的な取り組みの支援や県内からお客が継続的に訪れるような目玉を作るための支援必要である。

(委員)

大津町に来た人たちに周遊してもらわなければならない。

先ほど指摘があったが、TSMC 関係者の場合、通勤費用を気にしないため、熊本市内や博多から通勤することがあり得る。その部分を心配している。

海外の方と話をしたが、海外資本は、金額に左右されず、必要性があれば買収する。

私どももスピード感を持って、様々な面で取り組まなければならない。

おそらく TSMC の第 2 工場は、5 年以内に完成すると思われる。

その頃には、大津町は、現在の人口が 36,000 人程だが、夜の大津町は、5 万人を超える。そう思える程、アパートやマンション増えてきている。しかし住民票人口が増えない状況がある。

財政調整基金はいざというときのための調整基金だと思うが、財政調整基金を先行投資してでも、今必要なことをするべきと思う。

例えば、給食費を無償化することによって子育てしようと思えば町民人口増えると町民税が入ってくる。長い目でいろいろな面でのリターンを考えなければならない。

子供が増えると消費が増える。子供は毎年消費者となる。

大人は一度購入したら基本買わないが、子どもは毎年祭りでも様々なものを買う。私ども商工業者にとって子どもが一番の消費者となる。そのため、子供たちの元気な声が聞こえる町が活気のある町と感じる。

私はその面でも、大津町には先行投資をしてもらいたいと思う。

(委員)

委員の構想の話となる。大津町には、メインとなる商業施設がないため中高生は、熊本市内や菊陽町に行く。町長にはスピード感をもって町づくりを進めてもらい、大津町にいたいと思える町にしてほしい。

(委員)

大津町を好きと言ってもらえるよう関係団体と協議し進めていきたい。

(委員)

単発のイベントが多いことについて、先日テレビ番組で合志市の漫画ミュージアムが取り上げられており、古民家をリノベーションして、喫茶店のように本が読める場所として紹介されていた。

大津町でも新しく出店がされているが、消費者・主婦感覚として見ると単価が高く、日頃から通うことは難しい。

合志の漫画ミュージアムは年会パスポートが 1,500 円と安く、多くの人が休みの日に市町村を越えて合志まで訪れるのではないかと感じた。

新しい店が出来てもすぐに閉店すると、現状では新しい事業は難しいと子どもたちに思

われるのではないかと危惧している。

また、PTAを経験した住民代表としての発言となるが、三吉原北出口線の件について、TSMC及びトライアルまで渋滞している。

三吉原北出口線は、翔陽高校を中心として保育園、大津北中学校、室小学校、支援学校と沿線に教育施設が集まっている。

また、少し離れたところ昭和園にも、認定こども園を設ける説明を聞いている。

渋滞に対する苦情の声が多数あるため、道路の拡幅はすぐに取り掛からなければならない問題だと思う。

このままでは、あの道路を通りたくないと感じ、新しい店を出店しても行こうと思えないのではないかと。商業関係だけではなく、行政や教育との連携をきちんとし、開発を進めていただきたい。

最後に人材育成になるが、9月中旬から大津北中学校で職場体験が始まるので、商工会や企業の受け入れをお願いしたい。

(議長)

道路は重要な話であり、呼び寄せるためには行きやすいことは重要である。

また、リピーターとなれる場所が必要となる。

駐車場にも考慮が必要である。

(委員)

議長からの発言で駐車場がない、物価が高い等のことだったが、疑問がある。

現在、物価上昇が続いており、今後も価格が上昇している。その中でも価格が高く、駐車場が少なくても行列できる店もある。重要なのは品質だと思う。

夜市等を進めていく際のことだが、話合いのときにワーキンググループの方たちが行政に対して、やることについて教を乞いたり、こうしたらどうだろうかと提案していることについて、順序が逆であると思う。

行政に要望するより、民間である自分たちが行動した方が迅速に進んでいく。それが出来ないのはアイデアを持つ人が少ないためではないかと思う。

アイデアがあるならば、必然的に活性化していく。自分から活性化させていこうとする気持ちの持ちようが商売の活性化には必要であると考えている。

行政では時間がかかるため、行政に要望ではなく、民間が率先して行動しながら、行政が追従する方が最終的に活性化に繋がる。相手にすべてを任せるのと、自分たちで動くので協力してほしいでは全然違う。

その実践が出来ないため、地域の活性化は、難しいのではないかと思う。

(委員)

観光協会から町内の飲食関係の活性化について思うことがある。

熊本行きの電車の終電が早い。熊本から大津行の電車は0時近くまでであるが、反対側の方は、10時44分が終電の電車となる。そのため、終電を理由に一次会で帰られる人が多い。

二次会が難しい現状について、町を活性化するなら、熊本行きの電車が23時30分くらいに欲しい。大津町の活性化のために、行政から陳情し、JR九州にも取り組んでほしいことを、中小企業の活性化に繋がるため伝えてもらいたい。

(2) 本町の工事・役務・物件契約における町内事業者の受注状況等について

説明終了

質問なし